

(様式)

# 令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名 三木市立三木中学校

## 1 学校教育目標

自ら判断し、たくましく生き抜く生徒の育成

## 2 本年度の重点目標

- ・自他の命や人権を大切にす教育の推進
- ・確かな人権感覚を持ち、生徒理解に努める教員の育成
- ・規律と安らぎがあり、安全で安心して過ごせる学校づくり
- ・新型コロナウイルス感染予防および教育活動への影響を最小限にとどめるための取組の推進

## 3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程 学習指導	・授業時数の確保 ・基礎学力の定着 ・生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善	・週30時間、オンライン授業の実施 ・少人数指導、同室複数指導の実施 ・タブレットの活用 ・朝の読書、モジュール学習の実施 ・「自主学习ノート」の取組み	B	・ICT機器を有効に活用した授業の展開 ・基礎学力定着のためのAIドリルの活用 ・指導と評価の一体化の促進
道徳・人権教育	・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 ・自尊感情や自己有用感の育成	・ローテーション道徳の実施 ・人権作文、ポスター制作や人権作文発表会の取組 ・外部講師による人権教育の推進	B	・体験活動やボランティア活動を通じての所属感、自尊感情の醸成 ・学校生活における人権を大切にす言動
保健・安全	・新型コロナウイルス感染予防対策の推進 ・保健・安全意識の向上 ・防災教育の充実	・新型コロナウイルス感染予防対策と環境整備の徹底 ・交通ルール・マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番(PTAと連携)の実施 ・薬物乱用防止講演会の実施 ・避難訓練、1.17追悼集会の実施	B	・交通ルール、マナーの徹底 ・外部講師による専門的な立場からの指導 ・災害発生時に対する防災訓練の実施
生徒指導	・生徒の内面理解に基づく生徒指導 ・いじめや不登校の早期発見、早期対応 ・関係機関との連携	・アシスト教室の効果的な運営 ・生活アンケート、カウンセリングウィークの実施 ・生徒指導不登校委員会による情報の共有 ・関係機関(子育て支援課、子ども家庭センター、警察等)との連携	B	・家庭環境を含んだ生徒理解の深化 ・発達障害、性的マイノリティ等に関する研修の充実 ・不登校対策に向け、新たな組織づくり ・家庭や地域、専門機関と連携した生徒への支援
進路指導	・学年に応じた進路指導 ・キャリア教育の充実	・進路説明会の実施 ・進路相談の充実 ・私学合同説明会への参加促進 ・トライやる・ウィークの実施	B	・体験活動と連動したキャリアノートの活用促進 ・体験活動の充実

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

自己評価の方法は適切である。

- ・保護者、生徒、教職員への学校評価アンケート、そして全教科、全領域での指導・観察に基づいた自己評価の方法は適切である。
- ・長期化するコロナ禍での学校経営で配慮すべき事が計り知れないが、この3年間経験を活かし、さらに工夫を凝らされていることと推察する。
- ・人数制限をかけない行事の復活やマスクを外す機会の増加など、徐々に日常に戻りつつあるものの、不安視される方々への配慮も継続願いたい。
- ・コロナ禍での学校教育目標、今年度重点目標に沿った活動、学校評価アンケートの適用、細分化した評価観点など、自己評価で適切であるが、「評価アンケート結果」と「評価書」の評価観点の関連性があればリンクしてほしい

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

### 学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

評価Bは適切である。

- ・コロナ禍においても、紙媒体の教材だけでなく、タブレット端末等を活用してオンライン授業を円滑に実施するなど、「生徒の学びを止めない」学習指導が十分に評価できる。
- ・紙媒体の教材だけでなく、AIドリルの導入などのデジタル機器の活用とともに従来の地道な取組が成果として表れるよう、引き続きの指導を願う。
- ・評価アンケートの①～③について、生徒、保護者、教員の温度差が気になるが、タブレットの活用やオンライン授業は評価できる。

評価Bは適切である。

- ・ローテーション道徳授業で全教師で関わっていく体制があることで、教師の授業力向上だけでなく、生徒が教師との関係性を豊かにし、多面的・多角的に議論する道徳授業が展開されていることが十分に評価できる。
- ・人権学習で人を大切にす、思いやりを持って接することの大切さを身につけられていると評価できる。

評価Bは適切である。

- ・コロナ感染対策の徹底に取り組まれていると評価できる。人数制限をかけない行事の復活やマスクを外す機会の増加など、徐々に日常に戻りつつあるものの、不安視される方々への配慮も継続願いたい。
- ・三木中学校は、三木市ハザードマップにおいて、第2次避難所・大規模火災指定緊急避難所等に指定されているので、それに備えた防災用具の備蓄に向けて準備が進められていることが十分に評価できる。

外部からの不審者への対応や自然災害への備えなど、多岐に亘る想定が常に求められている。非常

- ・全国的に不登校生徒が増加傾向にある中で、学校がチームとなって密な連携を図り、アシスト教室を充実させたり、アンケート・カウンセリングによる実態把握に熱心に努めたりする指導が十分に評価できる。先生方の負担が気になりではあるが、一人でも多くの生徒が気持ち良く学校生活を送れるよう、引き続きの取組に期待したい。

思いやりを持って接することの大切さを身に着けるとともに、LGBTなど性的マイノリティの課題など思いやりだけではなく、行動を起こしていく大切さなどの学習の取組が評価できる。

- ・「改善方策」に示されているような対応、特に「家庭環境を含んだ生徒理解の深化」は大切である。家庭、関係機関との連携を密に推進願う。
- ・子どもと先生一対一で話を聞いていただける時間は、家庭(親)には話さないような学校でのことを相談できる良い時間だと思う。カウンセリングウィークは、継続して実施していただきたい。
- ・ここ数年達成率の改善が見られないのが気になる。時代背景が影響しているのかなのか、コミュニケーション機会を図ってほしい。

評価Bは適切である。

- ・改善の方策として、体験活動を充実させるために、「トライやるウィーク」において生徒がよりキャリアを意識できるような事業所運営のあり方を模索していることが十分に評価できる。
- ・キャリア教育を重視した「トライやる・ウィーク」への見直しを図るとのこと。2年生の生徒にとって有意義な活動になるよう努めていただきたい。

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と管理職の意見交換会の開催</li> <li>・学級経営の充実</li> <li>・生徒会活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会による学校行事の運営</li> <li>・生徒会委員会活動の充実(管理職との座談会実施)</li> <li>・ノ一部活デー完全実施によるメリハリある部活動運営</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会による学校づくりへの主体的な取組</li> <li>・生徒会を中心にした主体的な行事運営</li> <li>・進んで練習に参加しようとする部活動運営</li> </ul>	<p>評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価Aでも良いのではない。まだまだコロナによる制限が多い中、3年間の経験を活かした取組ができており、関連した学校評価項目のほとんどがA評価になっている。</li> <li>・生徒会執行部との座談会を元にした文化祭の私服登校のように、生徒会が働きかけて学校行事に関われることは素晴らしい。生徒の意見が尊重された学校行事の運営は大いに評価できる。</li> <li>・文化祭では、生徒発信で私服登校を実施し、今までにない事に取り組めたのは良かったのではない。生徒会と教師の間での対話の機会を十分に保障することで、生徒が主体となって校則を見つめ直したりするなど自主的な提案をしたり、自治的活動が充実していることが十分に評価できる。</li> <li>・生徒会の主体的な取り組み、話し合いの中で運営をされていることに高く評価いたします。「学校評価アンケート」の結果からの判断ではあるが、著しく達成率の改善が見受けられる。コロナ禍での学校行事遂行での評価であると思う。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実</li> <li>・家庭、関係機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の特性を共通理解し効果的な支援に向けた研修を実施</li> <li>・個別の支援計画の作成</li> <li>・関係機関との連携の推進</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした指導補助員との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する生徒の共通理解</li> <li>・個人カルテの作成と共有</li> <li>・特別支援教育に係る専門性の向上</li> <li>・特別支援教育指導補助員と連携した支援</li> </ul>	<p>評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のじぎく特別支援学校との連携を図ることは、よい取組みである。特別な支援を要する生徒へ支援を充実させるとともに、特別支援教育が「特別」ではなく、どの学級にも特別なニーズのある生徒がいるという意識を学校全体で共有し、特別支援教育の視点で授業づくり・学級経営に取り組んでいる点が十分に評価できる。</li> <li>・特別な支援を要する生徒のため、関係機関との連携が実を結ぶよう期待する。</li> <li>・小中の連携はもとより、中高の連携も更に深め、特別な支援を必要とする生徒たちがより良い学校生活を送れるような体制づくりをお願いしたい。</li> <li>・「道徳・人権教育」にもつながるデリケートな課題と思えるので、より一層きめ細やかな指導をお願いしたい。</li> <li>・校長先生が若手教師との勉強会を開き、実際にはさらに多くの教師が参加するなど、主体的で持続可能なOJTが実施されている点が十分に評価できる。</li> <li>・若手教師の育成や教員へのきめ細かなフォローを行うことにより、教員の資質向上に取り組んでいる。</li> <li>・不断の授業改善による「わかりやすい授業」が評価にもつながっている。「学校評価アンケート」の生徒理解の達成率改善に向けたOJTも期待する。</li> <li>・評価項目に「生徒理解に基づく生徒指導の推進」とある。学校評価アンケートの「生徒理解」の項目では生徒、保護者、教職員ともにB評価である。昨今、研修項目が多岐に亘り大変であると思うが、この点での研修の充実も願う。</li> </ul>
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導力の向上</li> <li>・生徒理解に基づく生徒指導の推進</li> <li>・意欲的な研修への参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不断の授業改善による授業力向上</li> <li>・SC、SSWによる校内研修の実施</li> <li>・教育センター等の研修講座への積極的な参加</li> <li>・オンライン研修の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善のための情報提供</li> <li>・講師を招聘した校内研修の充実</li> <li>・OJTによる若手教師の育成、教育技術の継承</li> </ul>	<p>評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生が若手教師との勉強会を開き、実際にはさらに多くの教師が参加するなど、主体的で持続可能なOJTが実施されている点が十分に評価できる。</li> <li>・若手教師の育成や教員へのきめ細かなフォローを行うことにより、教員の資質向上に取り組んでいる。</li> <li>・不断の授業改善による「わかりやすい授業」が評価にもつながっている。「学校評価アンケート」の生徒理解の達成率改善に向けたOJTも期待する。</li> <li>・評価項目に「生徒理解に基づく生徒指導の推進」とある。学校評価アンケートの「生徒理解」の項目では生徒、保護者、教職員ともにB評価である。昨今、研修項目が多岐に亘り大変であると思うが、この点での研修の充実も願う。</li> </ul>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくり</li> <li>・保護者、地域との連携による生徒の健全育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの積極的更新による情報発信</li> <li>・学級、学年、学校通信の発行</li> <li>・学校行事の開催方法の工夫による保護者の参加促進</li> <li>・地域行事への生徒の参加</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、家庭からの情報収集方法の検討</li> <li>・オープンスクールや学校行事の開催方法の工夫</li> <li>・地域行事運営への生徒の参加</li> </ul>	<p>評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に開かれた学校づくりに向けて、感染症対策や個人情報問題など時代的な壁が多くあるなかで、生徒・保護者・教師それぞれがより良い連携ができる工夫に努めている点が十分に評価できる。</li> <li>・今年度も学校評価アンケートの「家庭でのしつけ」の項目が生徒、保護者ともにB評価である。保護者は学校任せにならず、最低限の基本的な生活習慣は家庭で身に付けさせるべきであると考え。各地でコミュニティスクールの導入の進んでいるが、地域の教育力の回復も切望する。</li> <li>・「すぐる」を活用し保護者と学校の連携、情報共有が取れていると感じる。</li> <li>・昨年の改善の方策が実行されているのは評価できる。</li> </ul>
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設、設備の充実</li> <li>・スクールバスの適切な運行</li> <li>・美化活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化設備や損傷箇所の修繕</li> <li>・PTA予算による備品等の購入</li> <li>・スクールバス運行会社との連携</li> <li>・教師と生徒と同行の清掃活動</li> <li>・生徒会活動による施設整備</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委と連携した施設設備への対応(老朽化設備や損傷箇所の迅速な修繕)</li> <li>・スクールバスの円滑な運営のための工夫</li> <li>・ICT環境の充実</li> </ul>	<p>評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化施設や損傷箇所の修繕については、財政難等の問題もあるが、歴史ある三木中学校の生徒達の安全確保を最優先し、市と連携して迅速に対応願いたい。</li> <li>・美化活動の一環としてSDGs活動も、学校として取り組んでいただけならと思う。</li> <li>・校区が広大になり、スクールバスが運用されたばかりなので、イレギュラーな日程の際に配慮等課題が多く出てきたことが予想される。生徒がより安全に健やかに学校生活を送れるよう、柔軟に改善策を施行し、関係生徒にしわ寄せが行かないよう注意願いたい。</li> <li>・スクールバスを登下校だけではなく、部活動や、トライやる・ウィークなどもっと他の活用も検討していただきたい。</li> <li>・スクールバスの運行については、生徒・保護者からの要望に工夫いただき感謝している。</li> </ul>